転入生も石井方式にはすぐ慣れる

漢字の学年配当表を無視して教えたら、学校により漢字学習の範囲が違って、転校の場合など困るだろうと心配される方が多いようです。

私は小学校を卒業するまでに、学校が二つ変わりました。この三つの学校が、三つとも方言を異にしていただけにとても苦痛でした。話す言葉がお互いに通じない、これはどの苦痛はほかにありますまい。これに比べたら、学習した漢字の違いなど、物の数ではありません。言葉の場合でも、泣くのは一週間です。一週間でとけこんでしまいます。漢字で悩むのは、読めない漢字が出てきた時だけです。学習しない漢字でもかなり文脈から推して読めるものですから、読めないで困るということは、そうそうあるものではありません。それに学校差などというものはめったにあるものではなく、あっても環境に順応しやすい子供はすぐその差を埋めてしまいます。

石井学級の場合は、転入してくる子供は、漢字力に関する限り、全くひどい差があります。学級平均五、六百の漢字力をもっているところへ、わずか数十字の力ではいってくるのです。まさに、外国の学校に入学した子供みたいなものです。それでもその差を埋めるのは驚くほど早いものです。こんな、漢字の心配のために、漢字配当表を作るなどということは、あまりにも視野がせますぎると思います。

ご参考までに、ある母親の手記を掲載しましょう。

世田谷に住んでいました時に、テレビで東山小学校の石井学級の漢字教育を知り、とても感心しておりましたが、はからずも 12 月の初めにこの学校に転校した子供は、石井学級に編入されました。

最初の二日間は、家に帰っても泣いておりました。国語はもとより、算数も、文章題は漢字で提出されているので、読めませんから解くことができません。どうなることかと思っていましたが、三日目から猛然とファイトを燃やして漢字に取り組み始めました。学校から帰ると、「きょうは、こんな字を習ったよ。お母さん、この字知っている。僕知っているよ。教えて上げよう」と、目を輝やかせて報告するのです。また、うるさいほど、「これ、何ていう字」を連発して、三か月余りたった今、どうやらこうやらお友達に追い付くことができたようです。(以下略)

かなばかりで書かれていた文章題をやっていたこの子が、石井学級へ転入して、いきなりやらされた問題は、

春男君は、色紙を 14 枚持っていました。妹に 8 枚やりました。残りは何枚でしょう。

自動車に男の子が13 入、女の子が6 入乗っています。皆で何人乗っているのでしょう。

こんな問題だったのです。これでは、全く取り付く島もなかったと思います。「家に帰っても泣いていました」とありましたが、学校でも問題が読めなくて泣いていたのです。教師としても、この時ほどつらい思いをすることはありません。しかし、これほど差のある場合でも、驚くほど早く、いつも追いついているのです。これまでの十余年間、こういう転校児を毎年、何人か受け入れてきましたが、このひどい差に長く悩まされたことは一度もありませんでした。こういう特殊の場におかれると、一年生でも、ひと月に二、三百の漢字が読みこなせるだけの能力はもっているように思われます。

漢字の学校差など、転校の際、全く問題にはならないことを、私は経験を通して、断言したいと思います。